Interview

日本歯

専門士制度構築目指す

それに捕らわれず、まずは日衛が目指しているものをお伝えすることが必要であると思っています。そのためには、さまざまな現場で働く歯科衛生士が何を思って就業しているのかを把握したいと考えています。

5年に1度実施している勤務実態調査で会員の情報は収集できていますが、組織率を考えると残念ながらより多く存在する非会員の声も聞き取る必要性を感じています。

吉田直美前会長のころから非会員へいを反映させた会のビジョン策定を目指します。

来年2月22日に75周年事業を開催する予定ですので、そこでビジョンを発表できればと準備を進めています。

2つ目は、「専門歯科衛生士制度」の準備です。これも吉田会長時代から

が、日本歯科専門医機構にもご相談しながら制度の構築を目指しています。歯科衛生士のキャリアパスの1つのモデルケースとしてアピールしていきたいと思っています。

◆◇◆

――今年2月に公表された能力を示

したいと考えています。

3つ目は、入会率・組織率の向上に向けた取り組みです。残念なことに組織率は非常に低いです。

職能として歯科衛生士が好きで、責任感を持って従事している人は多いと感じています。しかし、歯科衛生士が

が果たす役割は大きく、社会的ニーズは確実に高まってきました。

日衛が取り組む事業は、歴代の会長と役員の皆様が築いてきた基盤に沿ったものです。しかし、われわれの活動がすべての歯科衛生士に伝わっていないのだと思います。これまでの会の取り組み、そしてこれからの展望を言語化、可視化して、歯科界や社会のより多くの人たちと共有できるような努力をしていきたいと考えています。

投稿 Contribution 寄稿

横井節子　日本・アジア口腔保健支援機構 認定講師

第二種歯科感染管理者検定試験「JAOSアカデミック検定」2025実施

学生のモチベーションが向上

日本・アジア口腔保健支援機構（以下JAOS）では、今年も広沢学園の取手歯科衛生専門学校とつくば歯科福祉専門学校の2校で第二種歯科感染管理者検定試験を実施した。2018年から毎年開催しているもので、今年で8回目になる。

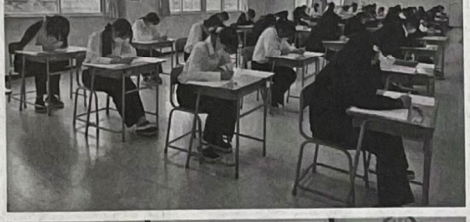
毎年9月から始まる歯科医院での臨床実習前に資格取得を目指し、7月16日は取手歯科衛生専門学校の2学年42人と、17日はつくば歯科福祉専門学校の2学年7人の両校であわせて49人が受験し、8月6日の前期終業式に全員の合格が発表された。また昨年度より、東京都や神奈川県の歯科衛生士学校においても同検定試験の実施が始まっており、なかでも日野市にある東邦歯科医療専門学校では、今年度は2月21日に1学年の47人が合格をした。1学年の後期でチャレンジし、早い時期での歯科感染対策の知識と情報を取得することにより2学年への進級意欲を高め、認定証を手にする経験により、国家資格である歯科衛生士資格取得のモチベーションアップにもなっている。

JAOSの歯科感染管理者資格制度は、国民、歯科医療従事者に安心して歯科治療を受けてもらう、医療機関に勤務してもらうことをコンセプトとしている。歯科治療はインプラント、歯周外科以外にも抜歯やスケーリングなど出血を伴う治療が多く、患者の感染リスク、歯科医療従事者の交差感染リスクが潜在している。また歯科治療器具・器材は特殊な形状のものが多く、適切な洗浄、消毒、滅菌法など正しい知識が必要だが、歯科衛生士の離職、人材不足から現場での徹底した管理や教育は非常に難しく、見えない部分であることからも十分であるとは言い難い状況である。そこで、感染制御・管理に関する知識を習得してもらうきっかけや、モチベーションの向上・維持につなげてもらえる検定試験を開催し、資格が取得できる。第二種歯科感染管理者は歯科の感染対策の知識の習得、第一種歯科感染管理者は歯科感染制御・管理対策マニュアルの作成スキルの習得が可能である。

JAOSのアカデミック検定とは、歯科衛生士養成機関（専門学校、短期大学、大学）に在籍中に歯科における医療安全や感染管理の知識を学んでもらうために設けた学生向けの第二種歯科感染管理者検定制度である。試験内容は一般（ジェネラル）と同じ内容のため、臨床実習現場における感染管理業務に関しては予習済ということになり、他の実習内容に集中できることになる。このアカデミック検定で資格を取得した学生は、2、3学年で行われる臨床実習にさらに実践での体験や学びを深め、卒業後は入職してすぐに歯科感染管理の有資格者として歯科医院で活躍することになる。

実際に、治療や感染対策のための設備を整えて、患者はじめスタッフにも安心できる医院づくりに取り組んでいる卒業生もいる。そのため、関係者からは、「学生時代に医療安全の基礎である感染制御について学んでいるため、歯科医療従事者としての自信と責任をもって入職されている」という話を毎年聞かれ、好評価を得ている。

現在、全国で第二種歯科感染管理者は4927人、歯科医師や歯科衛生士、歯科技工士、パラデンタルが資格を取得し、歯科医療の現場で活用している。JAOSでは、今後も引き続き全国の歯科衛生士学校において、の実施を積極的に進めていく。



㊤取手歯科衛生専門学校での試験風景
㊦つくば歯科福祉専門学校での試験後に撮影